

富士山信仰と富士塚

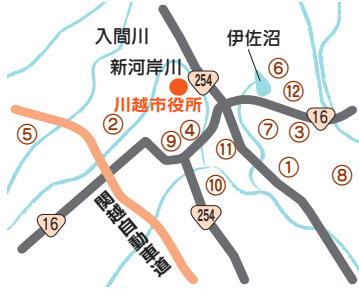
神社の入口付近などで、こんもりとした小山を目にすることはありませんか。頂上には浅間神社が祭られ、富士山から運んできた溶岩を積み上げたものや、参道や火口を表現したものがあります。これらは「富士塚」と呼ばれる人工の小山です。

その容姿や雄大さにより、古くから信仰・崇拜の対象となってきた富士山。江戸時代には富士講（富士山を信仰する人の集団）が流行し、参拝者が増えました。しかし、実際に参拝できるのは、財力や体力がある人のみ。誰もが富士山への参拝を疑似体験できるように、富士塚が築かれたのです。

浅間神社の富士塚(上)と火口を表現したもの(左)



市内の富士塚は、分かつているだけで十二か所。高さ一メートルから十メートル程度まで、大きさはさまざま。中には古墳を利用したものもあります。身近にある「富士山」を訪ねてみませんか。



- ① 稲荷神社 (木野目 1162)
- ② 白髭神社 (豊田本 1212)
- ③ 神明神社 (小中居 664)
- ④ 浅間神社 (富士見町 21-1)
- ⑤ 八幡神社 (安比奈新田 23)
- ⑥ 八幡神社 (鴨田 1072)
- ⑦ 氷川神社 (大中居 671)
- ⑧ 氷川神社 (久下戸 2785)
- ⑨ 氷川神社 (新宿町 1丁目 22)
- ⑩ 氷川神社 (砂 460)
- ⑪ 氷川神社 (南田島 280)
- ⑫ 古谷神社 (古谷上 3564)

小江戸川越観光
キャッチフレーズ

とき
薫るまち
川越



川越のイチゴ

赤くて甘いイチゴは、見た目にもかわいらしく、人気の果実。市内では主に、日持ちが良く甘みの強い「とちおとめ」、果肉が柔らかく甘みの強い「章姫」、香りが高く甘みと酸味の調和が取れた大粒の「紅ほっぺ」などが栽培されています。



受粉はすべてミツバに任せています



卵ほどの大きさの紅ほっぺ

直売所では、12月からハウス栽培のものが店頭に並んでいます。筋野弘樹さん(42歳・松郷)は、1mほどの高さに台を設置してイチゴを栽培する、高設栽培を導入。立ったままの楽な姿勢で作業ができることが大きな利点だそうです。「温度などの環境を整えること、個々の育ち具合を見極め、いちばんおいしい瞬間を逃さず摘み取ることが大切」と話します。



「子供たちのイチゴを食べたいという声で、栽培を始めたきっかけです」と話す筋野さん夫婦

口にすると、甘い香りと甘酸っぱさが広がります。一足早い春を、どうぞ召し上がれ。

ちよこつと **イチゴの豆知識**
表面にあるツブツブは果実で、この中に種が入っています。赤い実の部分は、雄しべの土台となる花托が発達したものです。

編集後記

どんぶり

ますます寒さが厳しくなってきた1月中旬。初雁橋近くから堤防に沿ってしばらく行くと、目の前に富士山が現れました(表紙写真)。あまりの大きさに、この道を行けば、すぐ富士山に着いてしまいそうな錯覚を感じました。この日は強風のためか、りょう線がくつきり。散歩している方は「今日は絶好の景色。気持ちが良い」と話していました。

市では、環境にやさしい「エコドライブ」を推奨しています。空気が澄んでいる冬。いつまでもこの美しい富士山が見られますように……。ゆつくり発進・停車”を意識しながら、帰途につきました。